

Wilhelm Camp

- Hands on training -

つがる総合病院 診療画像情報部 ○船水 憲一(Funamizu kenichi)
東北大学病院 診療技術部放射線部門 佐藤 和宏
東北大学病院 診療技術部放射線部門 小野寺 崇
栗原市立栗原中央病院 放射線科 吉田 礼
一般財団法人 新潟手の外科研究所
新潟手の外科研究所病院 放射線科 風間 清子
秋田県立脳血管研究センター 放射線科診療部 大村 知己
宮城県立がんセンター 診療放射線技術部 後藤 光範

【はじめに】

公益社団法人 日本放射線技術学会 東北支部では、今年度より学会発表や、論文作成をサポートするセミナー「Wilhelm Camp」を企画しておりますが、今回その一環として、ヴィルヘルム キャンプ ハンズオン トレーニングを開催いたしましたので報告いたします。

【報告】

2016年10月22日、第6回東北放射線医療技術学術大会参加登録者限定で秋田市にぎわい交流館AU ミュージック工房 (3F)において、募集人員20名のところ、15名、飛び入り1名の計16名の方が参加されました。ハンズオンセミナーの内容は、例題論文の電子データを材料に、プレゼンテーションスライド作成を行い、その場で評価添削する企画です。サージェントと呼ばれる講師が自ら発表した内容を、教材に使用しているため、内容に関しての質問にも十分対応できるようにしてあります。まずは、前日からWarm Up Partyと称して15名の方で、楽しく交流を深めました。

当日は、飛び入りの見学者として、JSRT国際戦略委員会&東北支部合同企画「英語プレゼンテーション支援セミナー」講師の白石順二先生（熊本大学大学院）と田中理恵先生（金沢大学医学部保健研究域）がいらっしやいまして、サージェント一同に良い意味での緊張感が走りました。セミナーの初めは、東北支部の坂本支部長より参加者の皆様への激励の挨拶で始まり、次に、プレゼンを

作成するにあたっての基本に関して東北大学病院佐藤氏より講義がありました。

そしていよいよ、プレゼン作成が始まりました。今回の例題論文は、CT、MRI、DRの3モダリティであり、参加者の皆さんには、予め、この3題すべてを渡してあります。この試料に関して予習をしていただき、当日作成するプレゼンを選んでいただきました。参加者の皆さんには、モダリティごとに集まっていたいただき、CTが9名、MRIが3名、DRが4名となりました。例題論文を書いたサージェントには、論文内容の説明を行ってもらいました。参加者は、他人の論文を自分なりにかみ砕いてプレゼンを作らなければならないため、文字や図表といったもののみではなく、内容の理解度も必要とされました。プレゼン作成には、想定外の時間がかかったため、参加者全員とはいきませんでした。各モダリティ数人の方をお願いして作成したプレゼンを披露いただき、参加者、サージェント全員で評価いたしました。セミナー終了後のアンケートの結果は、良好でしたが、参加者の中からは、せっかく作ったプレゼンを評価してほしいとの意見もあり、後日、作成したプレゼンをメール添付していただき、サージェントが添削するということといたしました。今回は、時間が限られた中でのハンズオンとのことで、参加者の皆さんも大変だったことと思います。また、サージェントも初の試みであったため、学ぶべきことが大いにありました。今回の問題点を糧にして来年に臨みたいと思います。

